

# 簡単な防除でウメ花枝の出荷量が向上

## 1 はじめに

ウメ花枝はシンクイムシ類の食害を受けると出荷することができません。これまでシンクイムシ類の食害により、ウメ花枝の出荷量や選別効率が低下していましたが、効果的な防除方法がありませんでした。このたび、省力的で効果的なシンクイムシ類の防除技術を開発したので紹介します。

## 2 シンクイムシ類の発生時期と食害時期

主にウメの新梢を食害するのはナシヒメシンクイです。ナシヒメシンクイの成虫は4月上旬から発生がみられはじめ、6月から9月にかけて発生が多くなります。一方、シンクイムシ類の幼虫は、6月下旬から8月上旬まで、ウメ花枝を食害します(図1)。

これらのことから4月上旬から7月下旬までの4ヶ月間、防除が必要です。

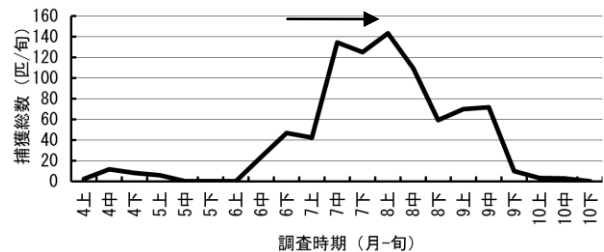


図1 ナシヒメシンクイ成虫の発生消長 (H22)

※→は食害期間を示す

## 3 防除資材の種類と使い方

シンクイムシ類は断続的に発生するため、成虫の交尾を連続して阻害する「性フェロモン剤」で防除します(図2)。オリファ・トトリア・ピ-チルア剤を地上2mの高さに設置すると防除効果が高いです。また、発生初期の4月上旬と発生量が多くなり始める6月上旬に設置します(表1)。



図2 性フェロモン剤の設置

表1 ウメ花枝のシンクイムシ類に対する防除体系(10aあたり)

| 資材        | 設置時期     | 使用量 | 設置高 |
|-----------|----------|-----|-----|
| オリファ・トトリア | 4月上旬     | 60本 | 2m  |
| ・ピ-チルア剤   | 6月上旬(追加) | 60本 |     |

## 4 性フェロモン剤による防除効果と費用対効果

オリファ・トトリア・ピ-チルア剤により、シンクイムシ類に食害される枝の割合を半分以下に抑えられます。出荷できるウメ花枝が大幅に増加することから、性フェロモン剤の設置費用を差し引いても、約28,000円/10aの所得向上効果が見込めます(表2)。

表2 性フェロモン剤による防除効果および費用対効果 (H25)

| 資材名              | 被害枝率 (%) | 出荷本数 (本/10a) | 粗収入 (a) (円/10a) | 設置費用 (b) (円/10a) | (a) - (b) (円/10a) |
|------------------|----------|--------------|-----------------|------------------|-------------------|
| オリファ・トトリア・ピ-チルア剤 | 14.5     | 10,199       | 111,378         | 11,189           | 100,189           |
| 無設置              | 44.6     | 6,608        | 72,159          | 0                | 72,159            |

## 5 留意点

風当たりが強い園では、性フェロモンの効果が十分に発揮されないだけでなく、性フェロモン剤の持続期間が短くなります。必ず防風対策が施された園地で使用してください。